

大学女子ハンドボールゴールキーパーの7mスローにおけるキーピングの個人戦術

宝田 希緒 (201811941、ハンドボールコーチング論)

指導教員：藤本 元、曾田 宏、山田 永子

キーワード：スカウティング、プラン、シュートセーブ

【目的】

本研究では、ゴールキーパーである筆者が7mスローでどのようなスカウティングを行い、どのようなプランを立てて、実際にどのようなキーピングしたのかを分析し、筆者の7mスローにおけるキーピングの個人戦術を明らかにすることを目的とした。

【方法】

1. 対象試合および対象シーン

2018年9月～2020年11月に開催された関東学生リーグ戦と全日本学生選手権大会における33試合である。対象シーンは筆者がゴールキーパーとしてプレーした全ての7mスロー合計66シーンであった。

2. 分析項目および分析方法

(1) プレー結果

筆者が対象試合をビデオ映像で見直し、筆者と対戦チームのゴールキーパーの7mスローにおけるシュートセーブの成否を、またシュートに関する筆者の予想を記述した。筆者と対戦チームのゴールキーパーのシュートセーブの成否の割合を比較するために、またシュートセーブの成否とシュートに関する筆者の予想との関係を明らかにするために、カイ2乗検定と残差分析を行った。有意水準は5%とした。

(2) スカウティングおよびプラン

対象シーンについて、事前に行ったスカウティングプランを記述、分類し、その観点の着目率(=その観点が記述されたシーン数/全シーン数×100)を計算した。また、立てていたプランについても記述、分類し、その種類の使用率(=その種類が使用されたシーン数/全シーン数×100)を計算した。さらに、プランの中で最も多かった誘導における方法を分類し、その種類の使用率(=その方法が使用されたシーン数/全シーン数×100)を計算した。

(3) 実際のプレー

筆者の実際に行っていたプレーを厳密に記述し、専門的指導者とともに反省分析を行なった。

【結果および考察】

1. プレー結果

(1) シュートセーブの成否の比較

有意差はなかったが、筆者の7mスローの阻止率(34.8%)は、対戦チームのゴールキーパーの阻止率(27.8%)に比べて高かった。

(2) シュートセーブの成否と筆者の予想との関係

筆者はプラン通りだったシュートは阻止できる確率が有意に高く、予想外だったシュートは阻止できる確率が有意に低かった。

2. スカウティングの観点

スカウティングの観点の着目率は、ボールスピードとテクニック(100%)、キーパーに関する観察度合い(50.0%)、得意コースの有無(28.7%)、メンタル(27.2%)、規則性の有無(19.6%)の順に高かった。

3. プランの種類および誘導の方法

プランの種類の使用率は、誘導(90.9%)、かけ引き(7.6%)、反応(1.5%)の順に高かった。また、誘導の方法の使用率は、前後のポジショニング(98.3%)、左右のポジショニング(61.6%)、フェイク(31.6%)の順に高かった。これらを組み合わせて使用していた。

4. 実際のプレー

筆者は、スカウティングによって把握したシューターの特徴をもとに、そのシューターが特定のコースに打ちたくなるように誘導してキーピングしようとする傾向があり、そのプランが当てはまつた時にシュートセーブできる確率が高い。今後は、予想外のシュートに対しての対応や対策が課題となろう。